

Webコンテンツ「TOHOKU DATABOOK online」オープンのお知らせ

～東北圏の今を最新の社会経済データ（15分野75指標）で分かり易く分析～

当センターではこのたび、東北圏の社会経済に関する主要指標から東北の現状、特徴を概観できるWebコンテンツ「TOHOKU DATABOOK online」を当センターHP上（<https://www.kasseiken.jp/>）にオープンしました。次のような特長がありますので、ご活用ください。

【特長1】社会経済の各分野ごとに、当センターの分析とその根拠となる図表を表示し全体の傾向や概観を把握できる

【特長2】特に確認したいデータについては図表の該当箇所にカーソルを持っていくことで数値の確認ができる

【特長3】データの表示・非表示を任意に選択でき、比較し易い

【特長4】図表のバックデータをエクセルシートでダウンロード可能

【特長 1】

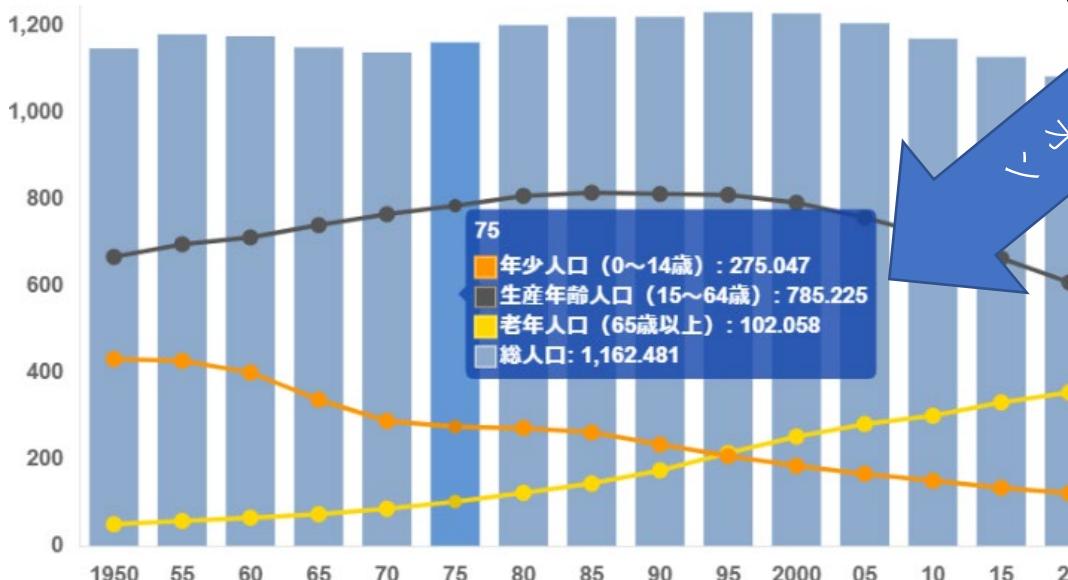
社会経済の各分野ごとに、当センターの分析を表示し特徴や概観を把握できる

【特長 1】

コメントの根拠となるグラフ等を表示して全体の傾向を把握できる

【特長 2】

特に確認したいデータについてはグラフの該当個所にマウスオーバーすることで数値の確認ができる



▶ 人口構造

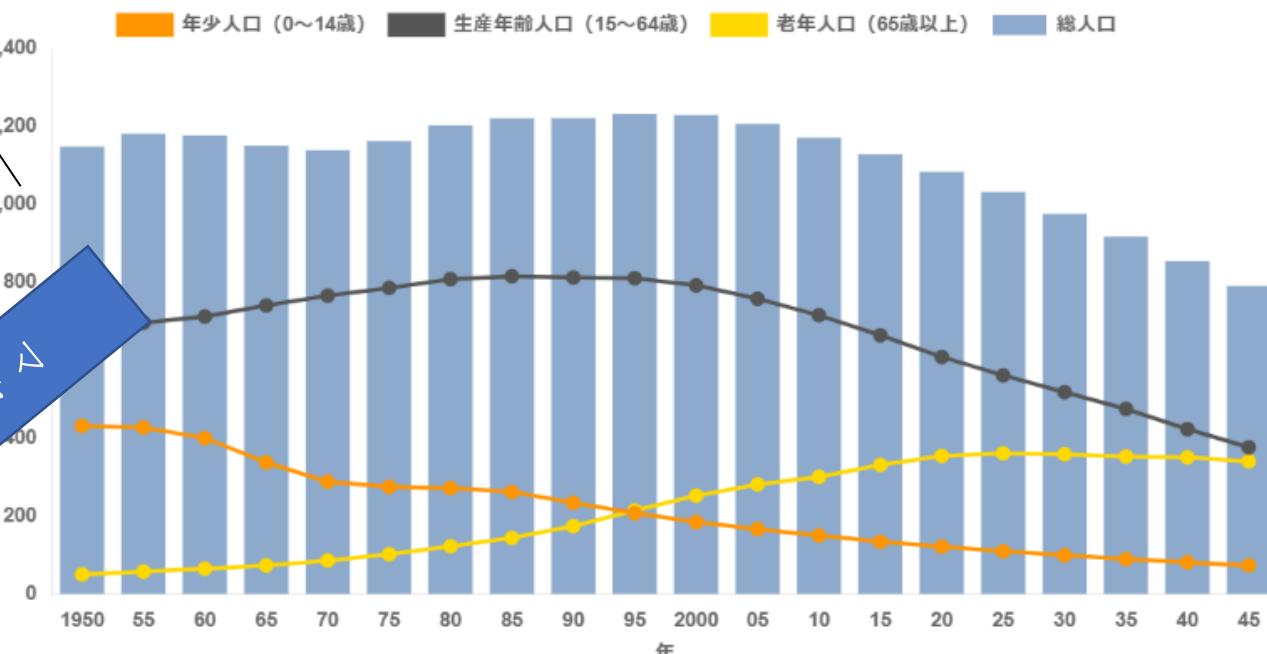
東北圏の人口は1995年の1,232万人をピークに減少しており、2015年は1,129万人となっている。

今後も人口の減少が見込まれており、2030年に1,000万人を割り込み、2045年には790万人にまで減少するものと予測されている。

人口減少が続くなれば、人口構造も大きく変化していく。年少人口（14歳以下）は2015年の133万人から2045年は73万人と45%（61万人）減少、生産年齢人口（15～64歳）も656万人（2015年）から376万人（2045年）と43%（287万人）減少する見込みである。

一方、2025年まで老人人口（65歳以上）の増加は継続し、老人人口は2015年の331万人から2045年の341万人まで3%（9万人）増加となり、高齢化率も29%（2015年）から43%（2045年）に達することが予想されている。

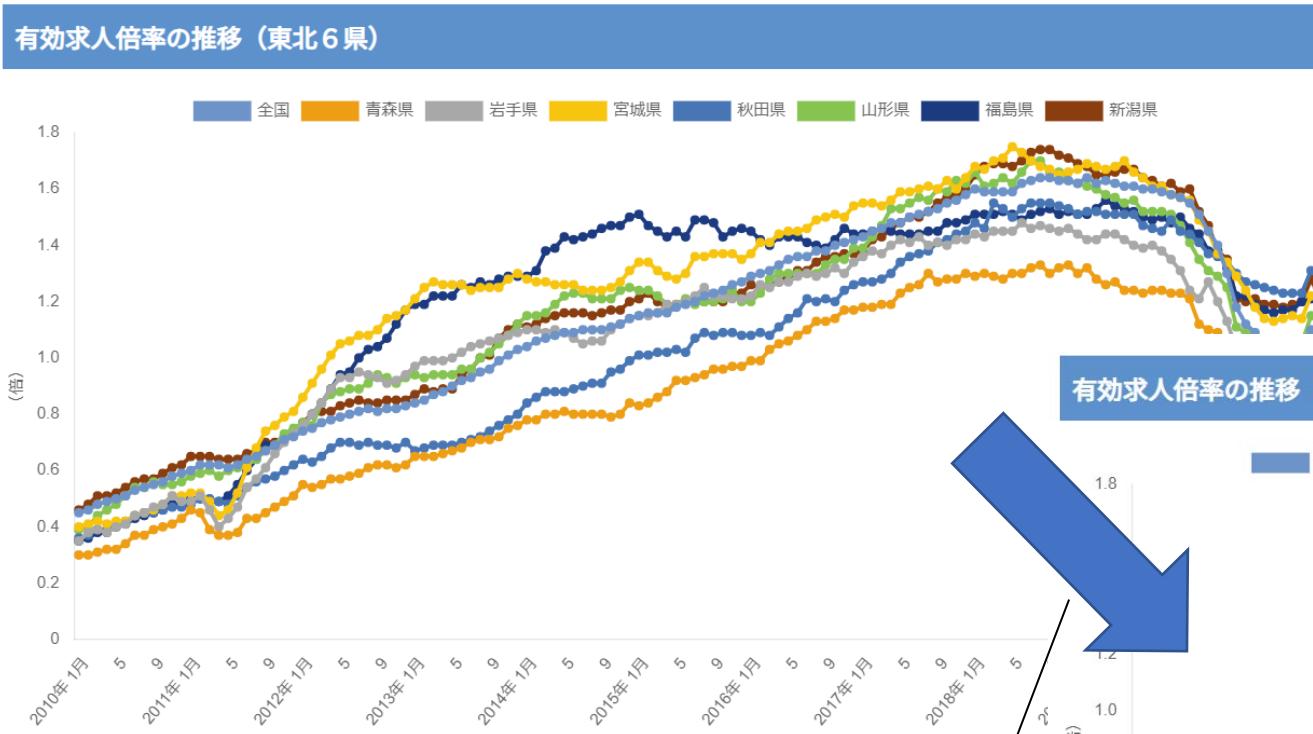
長期人口推移



<有効求人倍率>

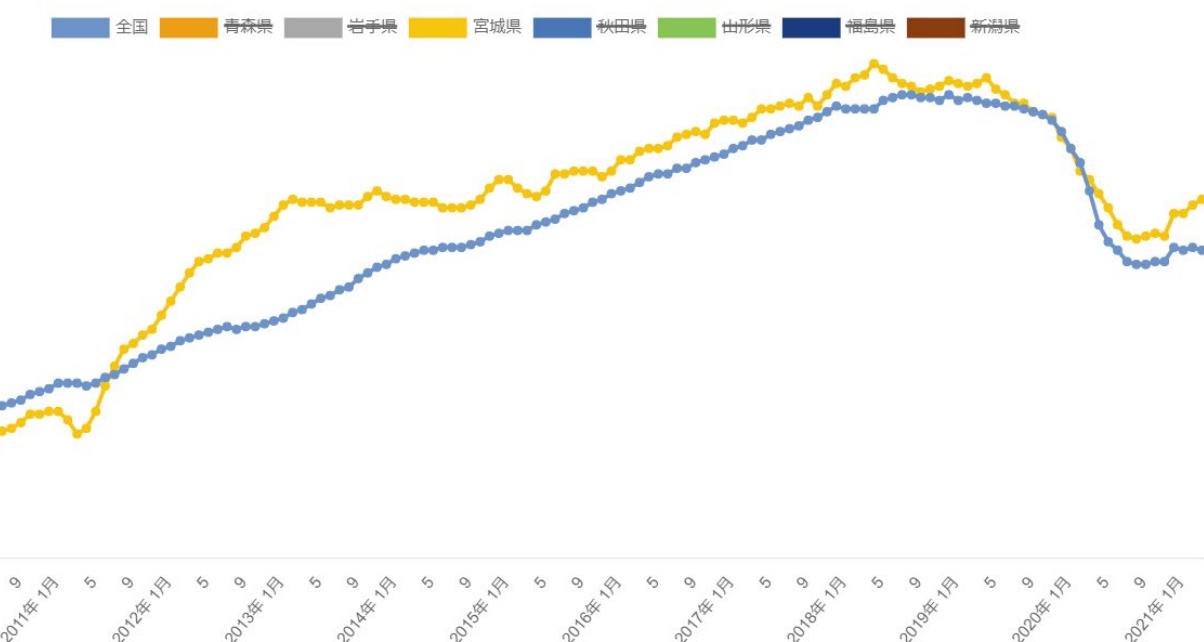
有効求人倍率は2008年の世界金融危機後から回復傾向にあり、2011年の東日本大震災後も復興需要の高まり等を背景に上昇した。2020年に入り新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に落ち込んだが、足元は持ち直してきている。2020年5月以来1倍を割り込んでいた青森県も2021年4月には12か月ぶりに1倍を超えていている。

有効求人倍率の推移（東北6県）



全国と宮城県だけの比較をしたい！

有効求人倍率の推移（東北6県）



【特長3】

グラフの系列ごとに表示・非表示を選択でき、比較がしやすい

【特長4】

図表のバックデータをエクセルシートでダウンロード可能

データのダウンロード（Excel形式）